

2020（令和2）年度関西保育福祉専門学校

第2回学校関係者評価委員会報告

本校の学校関係者評価委員会設置要綱に基づき設置した学校関係者評価委員会において、第2回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、概要をお知らせいたします。

1 開催期日 2021（令和3）年3月8日（月）15：00～16：30

2 開催場所 関西保育福祉専門学校校長室

3 出席者

■ 学校関係者評価委員

NO	委 員 名	所 属 等	出欠
1	長部俊弘 委員	社会福祉法人長陽会 ニコニコ桜保育園 理事長兼園長	欠席
2	田淵勝彦 委員	社会福祉法人みおつくし福祉会 救護施設 淀川寮 施設長	出席
3	板羽茂雄 委員	兵庫県立尼崎高等学校 校長	欠席
4	濱本亜紀 委員	保育科2年生 保護者	出席
5	山下知一 委員	社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会 宝塚さざんかの家 所長	出席
6	松本陽介 委員	学校法人阪急学園 副理事長 いるか幼稚園 園長	欠席

*田中稔弘委員（社会福祉法人明石恵泉福祉会 西宮恵泉施設長）におかれては、2月末日付けご退職のため、委員を辞任されました。

*松本陽介委員におかれては、当日の会にご欠席でしたが、「関西保育福祉専門学校自己評価報告書」に関して事前に、ご意見並びに評価を書面にて提出いただきましたので、会において公表させていただきました。

■ 学校教職員

NO	名 前	所 属 等	出欠
1	濱 名 篤	学校法人濱名山手学院理事長・関西国際大学学長	出席
2	本 田 あけみ	関西保育福祉専門学校 校長	出席
3	竹 島 琢 夫	同上 事務局長	出席
4	細 川 明 子	同上 教頭	出席
5	藤 田 千 波	同上 保育科学科長、就職委員長	出席
6	尾 崎 朋 子	同上 介護福祉科学科長	出席
7	藤 井 和 子	同上 教務委員長	出席
8	吉 田 しのぶ	同上 学生指導委員長	出席
9	早 川 京 子	同上 入試委員長	出席

4 概 要

1) 校長挨拶

2) 理事長挨拶

3) 協議

(1) 「2020（令和2）年度 学校自己評価報告書（案）」に対する評価について

① 「自己評価報告書」（案）について

■ 学校から説明

- ・基準1～10 までの中で 35 項目について評価をした結果を報告する
- ・全教職員に2月中旬に配布し、全員から回答を得た。

□ 委員からのご意見

- ・特になし

② 基準1～2について

■ 学校からの説明

- ・濱名山手学院の新たな教育ミッションを踏まえながら、建学の精神「以愛為園」を教育理念とした具体的な育成人材像を学校教育目標、学校経営重点目標として職員等に明示した。
- ・新型コロナウイルス感染症対応については、関西国際大学危機対策本部会議の方針に沿って、学内活動基準を策定し周知徹底している。
- ・感染症対策として、例年3月実施している保護者会を7月中旬にオンライン参加との併用で開催した。
- ・「校友会」の任命式や濱名ミサヲ賞の授与式は、You Tube で配信した。
- ・介護福祉科は2月に事例研究発表会をリモートで開催した。

□ 委員からのご意見

- ・コロナ対応の為、オリエンテーションセミナーや保育の花束など学校行事が中止となっているが、オンライン活用など工夫も必要である。

③ 基準3～6について

■ 学校からの説明

- ・5月末までオンライン授業、6月からは対面授業を実施
- ・濃厚接触者が2名出たが、PCR 検査結果「陰性」であった。自宅待機期間を経て通学を開始した。感染予防の注意喚起と学内での感染対策を徹底した。
- ・就職先への就業調査アンケートを例年の8月から12月に変更した。
- ・様々な就職フェアや就職説明会が中止となる中、姉妹提携園の就職説明会や見学を実施した。現場との連携を深くし、就業体験をすすめるペイドインターンシップ制度の活用を周知した。
- ・ICT 活用及び環境を整備した。

□ 委員からのご意見

- ・新型コロナウイルス感染症になった場合のフローチャートを作成し、学生にも周知することが必要である。
 - 活動基準の周知はできているが、フローチャートについても早急に作成し周知する。
- ・新型コロナウイルスに対応したモバイルの使用だけではなく、今後、現場でどのように使用するか説明が出来ていることが大切である。
 - ICT の活用は、授業中の使用だけでなく、就職後の活用もできることの説明を文書

で出している。また、記録などへの活用の説明もしている。授業としても ICT 活用の授業を行う予定である。

- ・姉妹提携園と連携であるが、就職に結びつけていくことが大事である。
 - 3カ所の幼稚園には、24～25名への実習生を出しており、5名の就職に結びついていいる。また、2カ所の保育園には、年2回4名の実習生を出し、2名の就職内定者がいる。
- ・2019年度就職希望なしが8名は多くないか。理由を把握しておくことが必要である。
 - 大学進学者や家業を継ぐ者などが入っている。
- ・新型コロナの関係で実習が変更となった時、学生との調整がうまくいかなかったことがあった。学生へのフォローアップはどのように行ったか。
 - 保育科の2年生最後の実習は、個々の選択である。しかし、今年度の新型コロナウイルスの関係での実習先の変更は学校で対応している。
 - 介護福祉科も実習の中止や変更の連絡が入ったが、学科で調整をしている。
- ・授業料減免措置を受けている学生がいるが、どのように対応しているのか。
 - 授業料減免に関しては、年1回継続願を提出してもらうが、担当者からも個別に声を掛けている。学生支援機構の奨学金貸与は、1年生で90名、2年生77名にしている。
 - 経済的理由による退学者はいない。退学理由では、意欲に欠けることが多い。学生からは「こんなに大変だとは思わなかった。」という声がよく聞かれる。

④ 基準7～10について

■ 学校からの説明

□ 委員からのご意見

- ・自己肯定感が低い学生が多いとのことだが、どこからそのように感じるのか。
 - 教育目標到達自己評価（ベンチマーク）度の評価が低い。教師側から見ればそうではないが、学生本人の評価が低い傾向にある。実習における評価も実習先評価より自己評価の方が全般的に低かった。
- ・自信の無さは、就職先分野として選択しないということにつながらないか危惧する。
- ・就職内定後の実習では、「別の所に内定しているのに、実習させていただき申し訳ない」と言っている学生もいる。
 - コロナ対応により、実習時期が変更になっている。
- ・定員確保に向けた一層の取組を願う。

⑤ 2020（令和2）年度自己評価報告書に対する評価について

□ 委員からのご意見

- ・各取り組みの中で課題点と改善点を明確に把握しており、適切。
- ・適切に評価している。
- ・評価報告書について、「適切」とする。

2020（令和2）年度自己評価報告書については、適切と評価する。

(2) その他
なし

4) 事務連絡